

氏名 木 村 和 陽

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 医 学

学位授与番号 博 乙 第 2843 号

学位授与の日付 平成 6 年12月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 気管支喘息における病態に基づく新しい病型分類に関する研究

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 谷崎 勝朗

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、気管支喘息は慢性アレルギー性炎症疾患としてとらえられているが、その病態の理解は従来からの病型分類では必ずしも目的を得ているとは考え難い。著者は近年の喘息病態に即した新たな喘息病型分類法を試みた。即ちIARの機序は従来より抗原特異的IgE抗体 (IgE RAST) を介する I 型アレルギー反応に基づいていると考えられているが、LARはなお不明な点がある。そこで、その指標を得るために、HD・mite及びCandidaによる気道誘発試験を施行した喘息患者のIgE RASTに加え、気道反応と抗原特異的リンパ球幼若化反応 (lymphocyte blastogenesis : Ly-BL) との関係を検討した。その結果、両抗原は共にLAR陽性群では陰性群に比しLy-BLが有意に亢進しており ($P < 0.01$, $P < 0.01$) , 抗原特異的なリンパ球の機能はLARの機序を反映していると考えられた。この結果に基づき、IgE RASTとLy-BLのS.I.値によりA群 : RAST(+)Ly-BL(-), B群 : RAST(+)Ly-BL(+), C群 : RAST(-)Ly-BL(+), D群 : RAST(-)Ly-BL(-) の4群に分類した。その分類に従うとA群, B群には若年発症型や軽中等症例が, C群, D群には中高年発症型や重傷例が多く, 特にLy-BL亢進例でその傾向が顕著であった。この病型分類により、喘息病態の特徴の一つとしてリンパ球の関与が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は近年の喘息病態に即した新たな喘息病型分類法を試みたものである。house dust, mite及びCandidaによる気道誘発試験を施行した喘息患者のIgE RASTに加え、気

道反応と抗原特異的リンパ球幼若化反応 (lymphocyte blastogenesis : Ly-BL) との関係を検討した。その結果, A群 : RAST(+)Ly-BL(-), B群 : RAST(+)Ly-BL(+), C群 : RAST(-)Ly-BL(+), D群 : RAST(-)Ly-BL(-)の4群に分類するのが妥当と考えた。これは臨床的に有意義であり, よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。